

地域支援連絡会議座長意見

○大阪市北区地域支援連絡会議座長

関西学院大学人間福祉学部 助教 平尾昌也 委員

今年度から大阪市北区地域推進会議に参加をさせていただいております。関西学院大学人間福祉学部の平尾昌也と申します。若輩者ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

本来であれば、委員のみなさまと直接お会いしてご挨拶をさせていただき、様々な議論をさせていただけることを楽しみにしておりました。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況下で、それが叶わない事態となってしまったことを大変悔しく思っております。1日も早くコロナが終息し、顔を合わせてお話しできる日常に戻れることを強く願っております。

さて、私は新型コロナウイルスがまだ世界を混乱の渦に巻き込む少し前、昨年度から地域支援連各会議に参加させていただくようになりました。昨年度の地域支援連絡会議では第1期大阪市北区地域福祉計画（以下、第1期計画）をふりかえり、第1期計画の中に書かれていることが、実際の地域でどれくらい進めることができたのか（地域福祉を推進することができたのか）。また、どのようなことが課題として残ったのか、この期間にどのような新たな課題が見えてきたのか。さらには、これらの成果と課題を踏まえた第2期地域福祉計画（以下、第2期計画）の策定に向けて、非常に熱い議論をさせていただきました。少し具体的にその様子をご紹介させていただきたいと思います。地域支援連絡会議に参加いただいた委員の皆さんにはグループに分かれて、それぞれに意見を出し合っていたいただきました。その様子は、各グループに入っていたいただいたファシリテーターの方々、出された意見をポストイットに記入する記録係の方々の作業が追いつかないほどのものでした。全てのグループで出された意見は、最終的にはポストイットでホワイトボードが埋め尽くされるほどの量になっていました。非常に限られた時間ではありましたが、それぞれ参加されたお立場から積極的に意見を出し合い、それを他の方々がきちんと受け止めて共感しながら議論をする様子は、まさに地域福祉実践で必要とされる「（住民の）主体性」と「お互いを認め合い、尊重し合う」姿そのものだと感じました。

地域福祉計画を策定する上で「地域住民の参加」は重要とされています。これからの地域福祉計画の策定に「地域住民の参加」無くして成立させることは考えられません。人口が集中する大都市であり、さまざまな人々が暮らす大阪市北区において、計画策定への多様な地域住民の参加のあり方（どのような人たちに参加してもらうのか等）は、今後も検討していく必要があると思います。それと同時に、参加することができる機会を増やすことも第2期計画を進めていく中で検討する必要があると感じました。

このような議論を踏まえて第2期計画が策定されて、まさに「さあこれから」というタイミングで新型コロナウイルスによりこれまでの日常が一変し、誰も想像し得なかった暮らしをせざるを得なくなっていました。またこの急激な社会の変化は、暮らしの場である地域社会にも大きな打撃を与え、これまでの住民同士がつながる方法や手段などが通用しなくなりました。つまり、これまでの地域福祉活動は「家から外に出て、みんなが集う場へ出掛けて、みんなでお喋りしたり、食事をしたり、活動したり」することを通じて住民同士が繋がることのできる「地域の居場所」をつくってきました。新型コロナウイルスによって、これまで地域福祉活動が大切にしていたこの核となる部分を破壊されてしまったと言えます。

情報提供シートにお寄せいただいたご意見からも、現実の地域社会で今まさに起こっている地域で支え合うことのリアルな困難を読み取ることができます。その一方で、困難な状況に置かれながらも、「今できること」や「これから何ができるのか」を考えて、行動に移そうとする強い気持ちと方針についてもご意見をいただきました。コロナ禍での新たな地域の課題に向き合い、取り組みを始めようとする姿はまさに、地域福祉に期待されている「開発性」と言えるでしょう。

これまで活動されてきた方々にとって、（これまでの）取り組み（活動内容や活動方法等）を変更することは決して容易では無いと思います。しかし、「今できること」、「今（これから）求められていることに応える」ことは、地域を支える新たな取り組みを生み出すこと（開発すること）と同じであると思います。このような地域での取り組みや、これからも出てくるであろう新たな地域の課題に対して、行政（区役所）や社会福祉協議会が地域住民の方々に寄り添い、支えると共に、連携・協働しながらこの状況乗り越えていくことがこれまでよりも一層意味を持ち、重要性が高くなると考えています。要するに、地域の方々と一緒に悩みながら、考えながら、進むべき方向を模索し、その道を進むことができる体制づくりやサポート体制を役割分担しながら整えることが求められるということです。非常に苦しい状況ではありますが、この苦境を共に乗り越えたその先には、より強い地域のつながりや、よりたくさんの人々がつながりを感じることができる地域社会の姿があるのだと信じています。

最後になりますが、北区地域福祉推進会議の委員のみなさまより、貴重なご意見をいただきましたこと深く感謝申し上げます。微力ではございますが、少しでも皆様のお役に立てるよう尽力させていただきたく存じます。今後ともよろしくお願い申し上げます。